

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学校名		岡山県立倉敷鷺羽高等学校	
実践者等		岡田 真理子	実践日 令和4年5月12日
実践場面 <small>(教科・科目(単元名)、学校行事等)</small>		家庭科・調理Ⅰ(日本の食文化・食品成分表の特色と見方)	
対象生徒(学年等)		普通科2年食物コース	
育成を目指す資質・能力		□知識・技能 ■思考力・判断力・表現力等 ■学びに向かう力・人間性等	
分類	授業中	□クラウドやアプリの活用 □デジタルデータの保存 ■思考やデータの可視化	
		□データの共有や共同編集 ■対話を充実させる活用 ■思考を促す活用	
		■表現を充実させる活用 □課題のやり取りと評価の支援 □効率化や省力化	
		□その他()	
	家庭学習	□振り返り ■探究 □反転学習 □補習・定着	
実践の内容			
<p>【授業】</p> <p>(1) 日本の食文化の特徴を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、四季が明確で、それぞれの季節の旬の食材があることを説明する。 <p>(2) 春夏秋冬の旬の食べ物を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春夏秋冬の旬の食べ物をそれぞれ発表させる。 <p>(3) 夏が旬の食品をあげ、栄養価やその食品の特徴を Google スライドでまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本のスライドを提示し、スライド作成上の条件を伝える。 <p>＜条件＞①②は必須。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食品の写真を必ず入れること。 ②食品の特徴や栄養価、産地を食品成分表をベースにテキストで入力しその上で気になったこと等をインターネットで調べ、さらに説明をテキストで入力したり、写真を挿入したりすること。 ③時間が余れば、その食品を使ったレシピを紹介するページを作成すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の作成状況をチェックし、条件を満たしていないものについては助言する。 <p>(4) (3) の内容を Classroom で提出させる。</p> <p>(5) (4) のスライドをクラスで共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のチェック後、代表者にスライドを用いて全員の前で発表させる。 <p>(6) まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからが旬の夏の食品に目を向け、旬の物を食事に取り入れる工夫をしていくよう伝える。 ・Google Forms で本時の振り返りをする。 			
<p>【本時と家庭学習との連動】</p> <p>(本時後) 今後提出予定の課題である「児島お弁当コンクール」や「牛乳・乳製品コンクール」に向けて各自がスライドにまとめたレシピを参考にし、夏が旬の食品を取り入れることができるように情報の共有を図る。</p>			

